出る杭研究

Go!Do!!Zoo & Aquarium!!! Project 2024
アニマルウェルフェアの観点から見た動物園ごとのコンタクトイベントの状況

〇佐佐木杏・〇高橋愛佳・加瀬ちひろ・池田裕美・山本誉士（麻布大学獣医学部）

研究の背景と目的

本プロジェクトでは埼玉県こども動物自然公園のテンジクネズミを用いたコンタクトイベントに関する研究を行なった。それに伴って他の園館やふれあい施設では、どのようなプログラムを提供しているのか視察すべきと考え、ふれあいコーナーのテンジクネズミのストレスに対する工夫や対策、飼育環境などを知るための調査を行った。

研究・調査方法



調査地：埼玉県こども自然公園、アニタッチみなとみらい
あらかわ遊園、 井の頭自然文化園、 野毛山動物園
よこはま動物園ズーラシア
調査期間：2025年5月~8月、1施設につき1日
手順：事前にインターネットでテンジクネズミのふれあいを行なっている施設を調べた。
候補の中からできるだけ様々な方法でふれあいを見られるように調査地を選んだ。
施設へ行き、一般の来園者として実際にふれあいを体験した。
ふれあいの方法や飼育環境などを確認し、疑問に思ったことは係の方に質問した。

結果と考察

表１. 各園でのテンジクネズミのコンタクトイベントの詳細

	コンタクト時間	コンタクト方法	事前に口頭説明があるか	イベント時の暑熱対策	逃げ場所があるか	群れで行動できるか	動物の移動があるか
埼玉県こども動物自然公園	1時間 （一人当たりのコンタクトできる時間 2分半～3分）	台の上でなでる	×	凍らせたペットボトルを置く	×	〇	〇
アニタッチみなとみらい	制限なし	上からなでる 餌を与える	×（注意書きのみ）	特になし	〇	〇	×
あらかわ遊園	20分	台上の個体をなでる おやつを与える 膝上で抱っこ	×（注意書きのみ）	凍らせたペットボトルを置く	×	〇	〇
井の頭自然文化園	約15分	かごの中に入れてなでる	〇	夏季期間イベント中止	×	×	〇
野毛山動物園	約20分	かごの中に入れてなでる	〇（動画視聴）	特になし	×	×	〇
よこはま動物園ズーラシア	約10分	かごの中に入れてなでる	〇	特になし	×	×	〇

・アニタッチみなとみらいは、ふれあいに特化した施設であるため、動物が自ら接触を回避できるよう逃げられる場所や隠れられる場所を設けるなど、アニマルウェルフェア （Mori et al., 2019）に配慮していると考えられた。
・長時間のふれあいはテンジクネズミのストレスに影響を与える(Kase et al., 2021)ため多くの施設ではコンタクト時間を短く設定することで、ストレス軽減を図っていると考えられた。
・テンジクネズミは社会性を持つ動物であるため、複数個体で飼育することが望ましいとされており（Sherwen & Hemsworth, 2019）、いずれの施設も普段は複数で飼育しているが、イベント時には各個体が分けられ、群れでの行動ができない施設もあった。
・井の頭自然文化園、野毛山動物園、よこはま動物園ズーラシアでは、イベント前に口頭で触り方のレクチャーを行うという工夫が見られた。

これから

各園での配慮が実際にどの程度動物に影響しているのか、行動や生理学的な評価もする必要がある。また、今回は麻布大学付近の動物園に絞って視察に行ったため、次は範囲を広げて他の動物園ではどのようなコンタクトイベントを実施しているか視察に行きたい。